地元人が案内する

西垂水 散策マップ

地域の魅力を再発見！

写真提供：神戸市教育委員会

この地図は、垂水区民まちづくり会議・西垂水生活文化圏部会において、まちづくり活動の一環として、まち歩きやワークショップを重ねて作成しました。

マップを参考にまちを歩き、歴史を刻みながら発展してきた西垂水の魅力をみなさんにも感じていただければ幸いです。

町名の由来

西垂水には、歴史を引き継ぐ町名が多く残っています。町名の由来を知ることで、昔の垂水を思い浮かべることができます。

歌敷山（うたしきやま）

舞子ビラのあたりにあった炊（かしき）山古墳の「かしき」に歌敷の字をあてた山陽電鉄歌敷山駅の駅名に由来しています。

大町（おおまち）

大町とは広い田の意味で、「まち」は田の区画を指します。

海岸通（かいがんどおり）

昭和40年、海岸部の埋め立てに伴って名付けられました。

霞ヶ丘（かすみがおか）

高台で霞がよくかかったことから、大正期に名付けられました。

神田町（かんだちょう）

海神社所有の土地があったことから、この名がついています。

向陽（こうよう）

日のあたる場所という意味から名付けられたようです。

高丸（たかまる）・**上高丸**（かみたかまる）・**陸ノ町**（くがのちょう）

もともとこのあたり一帯の広い丘陵地は、高丸陸（たかまるくが）と呼ばれており、宅地開発が進んで、高丸・上高丸・陸に区分されるようになりました。

天ノ下町（てんのしたちょう）

牛頭天王を祭った社（現在は高丸１丁目の八幡神社に合祀）の下、「天王下」がなまったものです。天神川の下にあたるから、という説もあります。

仲田（なかた）

両側を丘陵にはさまれた中の平地（田）からきています。

馬場通（ばばどおり）

海神社への参道にあたり、この付近で競馬をさせ、１年の吉凶を占いました。

日向（ひゅうが）

海神社は江戸時代まで「日向大明神」と呼ばれていたことがあり、これに由来します。松平日向守が今の霞ヶ丘あたりに新田を開墾するときに使った人達が多く住んでいたから、という説もあります。

宮本町（みやもとちょう）

海神社が鎮座するところから名付けられました。

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization

City of Design KOBE

Member of the UNESCO Creative Cities Network since 2008

リサイクル適性Ⓐ この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

平成29年2月発行　垂水区役所総務部まちづくり課

神戸市広報印刷物登録 平成28年度　第535号　（広報印刷物規格B-1類）

歴史スポット

❶池姫地蔵尊（いけひめじぞうそん） D-6　陸ノ町

昔、現在地の東北の台地に前の池、奥の池という大きな2つの池があり、昭和の初めに埋め立てられました。その時発見されたお地蔵様を池姫様と名づけてお祀りしています。線香の絶えることがなかった祠も、今では古くなり、建替えが予定されています。

❷御霊神社（ごりょうじんじゃ） D-6　御霊町

源平合戦では、このあたりで多くの戦死者がで、その霊を弔うために創建されました。大正末まではうっそうとした森だったといいます。現在は瑞丘八幡神社に合祀されていますが、その跡地には祠があります。

❸松平日向守供養石碑（まつだいらひゅうがのかみくようせきひ） C-5　霞ヶ丘2丁目

江戸時代の初めに明石城主としてこの地を治めた松平信之公の供養碑で、垂水新田（今の霞ヶ丘あたり）の開墾を感謝して建立されたといいます。かつての天王橋の一部と霞ヶ丘命名碑も同じ場所に移されています。

❹遊女塚（宝篋印塔）（ゆうじょづか（ほうきょういんとう）） C-6　仲田1丁目

南北朝時代の1337年に造られた高さ3メートルの石塔です。旅人の無事や悪霊の流入を防ぐ願いの石塔と考えられていますが、垂水沖で溺死した遊女を供養したとも伝えられています。もともと海神社の西方、西国街道沿いに建てられていましたが、明治21年の鉄道開通時に今の場所に移されました。県指定重要文化財です。

❺五色塚古墳（ごしきづかこふん） B-6　五色山4丁目

4世紀末から5世紀初めにかけて造られた県下最大の前方後円墳です。淡路島の五色浜から運んだ数十万個の色とりどりの敷石で造られたので五色と呼ばれるようになった、または、その形がコシキ（米を蒸すせいろの古語）に似ていることから、五色と呼ばれるようになったともいわれています。

9：00～16：45　開園（12月～3月は月曜休）

078-707-3131

昔はうっそうとしていてマムシが出ることもありました。石は今よりもきれいで、五色の丸い石でした。今はきれいに整備され、NPO法人輝かすみが丘が、一年中草を刈りきれいに整備して見学者をお迎えしています。（N. Y）

五色塚古墳から海を臨めば、稜線がピンク色に染まります。波は穏やかで、ゆったり船が行きかう姿は、太古の昔が想像されます。夕陽が沈めば、雲があかね色に染まり、まさに絶景です。（S. M）

❻瑞丘八幡神社（厄除八幡宮）（みずおかはちまんじんじゃ（やくよけはちまんぐう）） D-5　高丸１丁目

旧西垂水村の氏神が祀られ、戦前は昼でも暗い鎮守の森で、弥生時代からの聖域であったようです。もともとは農耕の神でしたが、中世からは厄除開運の神にもなりました。昭和6年、今の天ノ下町にあった瑞丘社を合祀しています。毎年、1月18日～20日に厄除大祭、10月11日に秋祭が行われます。

078-707-3654

❼海神社（かいじんじゃ）（わたつみじんじゃ）

C-7　宮本町

927年の「延喜式」にも名前がでてくる垂水を代表する神社です。底津綿津見、中津綿津見、上津綿津見の三神を祀っており、今から千数百年前、神功皇后の軍船が嵐に遭い、ここで三神に祈ったところ風波が収まったという伝説があります。毎年、夏祭は7月10～12日、秋祭は10月10～12日で12日に行われる海上渡御は有名です。

078-707-0188

❽西垂水戎神社（にしたるみえびすじんじゃ）

C-7　宮本町

豊漁神で、漁師まちには全国至る所で祀られています。伝説では、淡路から葦舟に乗って蛭子（ひるこ）が浜に流れ着き、元気に成人した恵比寿さんを祀ったものといわれています。

阪神淡路大震災でご本堂が傾みましたので新しくお造りしました。私共の身代わりになられたありがたい戎様です。（Y. J）

❾海神社御旅所の碑（かいじんじゃおたびしょのひ） B-8　海岸通

御旅所とは、神社の祭礼に神輿が本宮から渡御して、仮にとどまる所をいいます。海神社の秋祭りの内、特に10月12日は海上渡御祭と呼ばれています。

海上渡御祭では、御祭神が御座船に乗り、十数隻の御供船を従えて来られ、ここで西垂水の有様をご覧になり帰るとされています。その華やかな風景を是非ご覧下さい。（K. Y）

❿高尾子安地蔵（たかおこやすじぞう） C-7　五色山1丁目

大正10年に現在地に移されたものです。これ以前は天神川の西側、河西町（現海岸通）の西端近くにありましたが、国道の拡幅のために、周りに数多く点在していた小さな地蔵尊も一緒に祀りました。

⓫垂水日向遺跡（たるみひゅうがいせき） D-7　日向1丁目

縄文人が干潟を歩いていた痕跡が見つかった遺跡です。レバンテ垂水1番館地下1階のコープ南側入口前に、当時のものを復元した親子の足型などの展示コーナーや、イメージビデオの上映などを行っています。

地域の自然

福田川（ふくだがわ）　日向など

福田川には、昔、コイやウナギなどがいっぱいおりました。50年ほど前には、よく親父に「カニ獲って来い！」と言われて、河口部でカニを獲って、食べたもんです。（K. M）

⓬洞養寺の市民の木（あべまき・くろまつ）（とうようじ）

C-6　天ノ下町

洞養寺には市民の木が2本あります。1本は庫裏の北側に推定樹齢300年といわれている、あべまきの老木で、もう1本は本殿の南側にある推定樹齢350年のクロマツです。（K. Y）

※現地の表示「くぬぎ」について、正しくは「あべまき」です。

⓭青木禅寺の市民の木（くろまつ）（せいぼくぜんじ）

C-6　旭が丘1丁目

樹齢400年を越す老松です。形が帆掛け舟とも又臥龍にも似ているところから、瑞龍（ずいりょう）の松といわれています。「瀬戸の海を背に月に佳く、雪又絶景、播磨に冠たり」と歌われていました。樹高は4m、枝張りは13mを越す見事な瑞松です。（Y. J）

⓮瑞ヶ丘の松（みずがおか）

D-5　瑞ヶ丘

瑞丘八幡神社近くの道路わきに立つ、大きな一本松です。

⓯旭が丘の急な坂（あさひがおかきゅうなさか）

C-5　旭が丘1～3丁目

旭が丘1～3丁目と校区を分ける道。馬の背を横切るような急勾配で地獄坂とも云う。この坂は三十歩登って息切れ、そこから二十歩で足が痛くなり、更に五歩で一休み、後をふり返って明石海峡大橋。『苦あり楽あり地獄坂』（H. Y）

⓰旭が丘のビュースポット（あさひがおか） D-5　旭が丘1丁目

旭が丘の急な坂を上がりきった地点の、ちょっと変わったカーブミラーのある交差点を南に曲がれば、すばらしい眺望が開けてきます。明石海峡大橋びゅースポット50選の場所でもあります。

⓱高丸5丁目付近のビュースポット（たかまるごちょうめ） D-5　高丸5丁目

垂水の市街地が一望に見下ろせます。前方には瀬戸内海が広がり船の汽笛が聞こえ、東には鉢伏山からの日の出が、西には明石海峡大橋の向こうに夕陽が見えます。（N. H）

⓲旧かまぼこ道　C-6　五色山1丁目など

この辺りの道は、以前は中央部が高く、両端が低くて、かまぼこのような形をしていたので、通称『かまぼこ道』といいます。傾斜がきつく、ベビーカーなどは傾くので、怖くて危険な道でしたが、現在は、改修が終了しています。（N. Y）

区民の公園など

⓳高丸第2公園（咲香園）（たかまるだいにこうえん（さっかえん）） D-4　高丸5丁目

住宅地の中のかわいい小公園です。四季の花を美しく咲かせています。樹木のせん定も形よく手入れしていますので、通りがかりにちょっと立ち寄って、楽しんでください。（H. H）

⓴上高丸北公園の名誉花壇（かみたかまるきたこうえん）

D-2　上高丸３丁目

周辺の自治会等8団体が清掃と管理をしています。公園北側の花壇は「すてきなまちかど」として親しまれ、「市民花壇コンクール」ではいつも上位入賞しています。夏には「盆おどり」が催され、大勢の人で賑わいます。（N. H）

㉑清水公園の名誉花壇（しみずこうえん）

D-6　清水通

㉒ゼラニウム街道

E-5　大町3丁目

㉓千鳥が丘公園（ちどりがおかこうえん）

E-3　千鳥が丘３丁目

㉔大町公園（おおまちこうえん）

E-5　大町１丁目

㉕瑞穂公園（みずほこうえん）

D･E-6　瑞穂通

ウォーターフロント

㉖垂水漁港（たるみぎょこう）

C ・ D-8　宮本町～平磯3丁目

神戸市の漁業の拠点地で、船曳網・小型底網などの漁船漁業やのり養殖業が盛んですが、活魚を市場へ搬出する中継基地としても大きな役割を果たしています。“垂水漁港のいかなご漁”は「残したい日本の音風景100選」にも選ばれています。

㉗マリンピア神戸（こうべ） さかなの学校（がっこう） B-8　海岸通

“塩づくり”“乾のりづくり”などの体験学習のほか、さまざまな展示を通して、神戸の漁業を紹介する施設です。周囲には海を見ながら憩えるベンチもあります。

078-706-5550（水曜休）

マリンピア神戸内施設、さかなの学校屋外に設置されているベンチより臨む、明石海峡大橋越しに夕陽が沈む眺望は、年間を通して、様々に形を変えて楽しむことができます。最高の癒しスポットですので是非一度お越し下さい。（N. M）

㉘アジュール舞子（まいこ） B-7　海岸通

明石海峡大橋の雄大な人工美と海峡の自然美が調和する海浜スポーツ・レクリエーションゾーンとして整備されました。夏季には海水浴客で賑わいます。078-706-2011

垂水のまちのシンボルの１つ“明石海峡大橋”を一望できるアジュール舞子は、ちょっとした散歩からジョギングまで幅広い年齢層の方々に楽しんでいただけるスポットです。心地良い浜風の中、暫し時を忘れてみませんか。（Y. Y）

年表で見る 西垂水郷土史

時代	西暦	事項
無土器	1万年以上前	名谷、星陵台、大歳山などで無土器時代の旧石器が使われる
縄文	5~3千年前	福田川から縄文土器が出土
弥生	2世紀	海神社創建？（この頃、海神社信仰海人族の侵入）
古墳	5世紀	五色塚古墳ができる
平安	927年	延喜式が作られ、「垂水郷」や「海神社」の名が載る
室町	1337年	遊女塚宝篋印塔建てられる
江戸	1813年	「播州名所巡覧図絵」が出版され、海神社や舞子の浜の絵が載る
明治	6 1873年	塩屋小学校、名谷小学校、垂水小学校、舞子小学校発足
	21 1888年	私鉄山陽鉄道(現ＪＲ)が兵庫駅から明石駅まで開通し、現垂水駅ができる
	22 1889年	明石郡垂水村誕生
	25 1892年	舞子郵便電信局(現垂水郵便局・NTT垂水)村役場西に開設
大正	6 1917年	兵庫電気軌道が塩屋停留所から明石停留所まで開通
	11 1922年	垂水小学校が現在地に校舎を建て、移転
	13 1924年	神明国道(現国道2号)の工事開始
昭和	3 1928年	垂水村から垂水町へかわる
	6 1931年	神戸高商の校舎が星陵台に落成し移転、県立農学校建設 垂水に初めてバスが走る
	7 1932年	県立商業（現星陵高校）の校舎が星陵台に落成し移転
	8 1933年	神明国道(現国道2号)の改修工事が完成
	9 1934年	省線電車(現ＪＲ)須磨～明石間が電化し、電車運転を明石まで延長する
	11 1936年	垂水小学校の新校舎が高丸に建つ 垂水に初めて山陽バスが走る (垂水駅～神戸高商)
	16 1941年	明石郡垂水町(塩屋、東垂水、西垂水、舞子、多聞、名谷、下畑)を須磨区に編入
	20 1945年	垂水小学校の高丸校舎、農学校近くの民家などが空襲で焼ける
	21 1946年11月	須磨区垂水町は垂水区になる。垂水区役所が現垂水体育館の場所に開設
	22 1947年 3月	明石郡伊川谷村、櫨谷村、押部谷村、玉津村、平野村、神出村、岩岡村が神戸市に合併され垂水区に編入
	23 1948年 2月	垂水消防署設置
	4月	県立神戸商科大学、新制大学として発足
	9月	垂水警察署設置
	25 1950年12月	垂水消防署新庁舎完成
	26 1951年 3月	垂水小学校、日本一のマンモス校になる
	28 1953年 5月	垂水公設市場完工式
	33 1958年 4月	淀川の水を垂水、舞子地区に送る送水大トンネル開通
	34 1959年 8月	高丸団地の入居開始
	10月	西神戸総合漁業組合(7漁協が統合)発足 国鉄(現ＪＲ)の複々線化工事、垂水駅の高架工事が始まる
	36 1961年 6月	垂水中学校のプール建設着工
	9月	垂水区役所、垂水保健所新庁舎が宮本町に完成
	38 1963年 8月	垂水漁港起工式（市が5か年計画で築港）
	39 1964年 6月	山陽電鉄歌敷山駅がなくなり、霞ヶ丘駅ができる
	40 1965年 3月	国鉄(現ＪＲ)垂水駅高架工事完成 (8月駅舎完成)
	11月	五色塚古墳の復元起工式
	42 1967年 8月	山陽電鉄高架垂水駅完成
	43 1968年 3月	垂水漁港ビル完成
	47 1972年 3月	国鉄(現ＪＲ)垂水駅に快速電車がとまる
	49 1974年11月	垂水漁港が完成
	50 1975年 3月	垂水消防署が平磯から野田通に移転
	4月	垂水体育館オープン
	8月	五色塚古墳オープン
	52 1977年 6月	垂水区菅の台、竜が台を須磨区に編入
	56 1981年 9月	水産会館完成
	57 1982年 8月	西区を新設、伊川谷村、櫨谷村、押部谷村、玉津村、平野村、神出村、岩岡村を垂水区より分離
	59 1984年 3月	垂水駅前再開発東・西地区都市計画決定
	60 1985年 2月	垂水区名谷町の一部を緑台及び弥栄台に町名変更し、須磨区に編入
	61 1986年11月	垂水警察署が宮本町から現在地(本多聞)へ移転
平成	1 1989年 2月	垂水駅前東第一地区再開発ビル着工
	5月	垂水区名谷町の一部を学園東町に町名変更し、西区に編入
	2 1990年4月	神戸商科大学、神戸工業高等専門学校が西区へ移転開校
	10月	商大線拡幅工事着工 マリンピア神戸の公有水面埋立免許取得
	3 1991年11月	再開発ビル一部完成と共に垂水区総合庁舎完成
	8 1996年11月	垂水区制50周年
	10 1998年 3月	マリンピア神戸一部供用開始
	4月	アジュール舞子一部供用開始
	11 1999年11月	垂水駅前再開発西地区完成
	12 2000年 3月	垂水駅前再開発東地区完成
	14 2002年 2月	垂水駅西広場完成
	7月	垂水駅東広場完成
	19 2007年 3月	商大線完成
	19 2007年 4月	垂水消防署が野田通から現在地(舞多聞東)に移転